

安政伊賀上野地震(1855)の主な前震、余震活動

Major fore- and aftershocks of the Ansei-Iga Ueno Earthquake of July 9, 1854

都司 嘉宣[1]

Yoshinobu Tsuji[1]

[1] 東大地震研

[1] ERI, Univ. Tokyo

安政伊賀上野地震の本震は安政元年六月十五日の丑刻（1854年7月9日、2時）ごろ、三重県上野市北部付近を震央として起きた地震である。しかし、この本震の2日前から一連の地震活動はすでに始まっていた。また、規模の大きな余震がその後約1カ月ほど続いた。被害を伴う前震を2度、被害を伴う余震を6回数えることができる。つまり、安政伊賀上野地震というのは嘉永7年（=安政元年）6月13日（1854年7月7日）の正午頃に始まり、同年7月10日（8月3日）3時の顕著余震で終わりを告げた、約1カ月の間に起きた8個の被害地震の総称である、ということができる。このほか、被害地震とはならなかったが、震度と見られる記録のある点が複数個あって、およその地震規模M、および震央位置の推定出来る事例が3個あった。

これら11個の顕著前震、余震について、震度分布図を作成し、それらの地震規模、震央位置を調べ、さらに、安政伊賀地震を起こした断層を明確にした。以上の11個の顕著前震、余震の震央を地図にプロットすると、前震、余震ともすべて木津川断層上とその東西の延長線上にばかり起きていて、桑名四日市断層付近には顕著な前震、余震は一つも起きていないことが分かった。したがって、大長(1982)らが指摘したような、桑名四日市断層も動いたとする見解は否定される。すなわち、安政伊賀地震は、木津川断層の活動によって起きたのであって、桑名四日市断層は活動していない、と結論される。